

## 平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	里山学習事業			財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	教育委員会	課等名	公民館	内線	4210					
政策体系上の位置付け	政策	環境・循環型まちづくり		関連計画、 条例等						
	施策	環境改善活動の展開								
基本事業										
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続							
事業期間	H16年度～H18年度		環境調整会議の必要性	あり						

## 【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを旨とします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)	当面は川路地区住民を対象とする。特にかつて薪を里山で採取し燃料として活用していた経験のある高齢者が、その経験を次世代や子どもたちに伝えていくという視点から、多世代の住民を対象としたい。	川路地区住民	当初(15)	17年度	2000人
里山の保全活動に関わる人を広げ、保全活動の実際を知る人を世代を越えてつなげる。里山保全の活動と、そこで発生した薪の活用をつなげる。 薪ストーブから発生した灰を中和剤として畑で活用し、里山の保全活動から食の問題にまでつなげることで、循環型社会の有り様を考えるきっかけとする。		里山から採取した薪の量	当初実績(15)	最終目標	16実績	200束
		循環型社会の有り様を課題とするようになった参加者数	16目標	150束	17目標	150束
			当初実績(15)	最終目標	16実績	80人
			16目標	100人	17目標	100人

## (2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容 (やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
		<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型地域社会の実現に寄与することを目的に、市民の自発的な学習・実践活動を支援する。</li> <li>具体的には、川路地区をモデルに、里山から発生する薪をエネルギー化することが可能か、データ収集を行う。また、里山保全、域産域消へと発展させ、循環型地域のモデル地区としたい。</li> <li>地域住民による自発的な活動となることで活動の継続性が担保されることから住民主体の実行委員会方式の運営を図りたい。</li> </ul>	川路地区をモデルとする。 川路公民館に薪ストーブを配置し、その燃料としての薪を、荒れた里山で採取する活動を多世代の参加で進める。具体的には、16年度は、参加者の確保、薪ストーブの有効性、里山保全活動の実効など、取り組みを今後広げることを試す実験の年とした。	事業実施回数(里山作業、そのための学習会など)
里山保全活動の実施。 環境学習の実施。			事業実施回数(里山作業、そのための学習会など)	4回

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額
事業費	特定国庫支出金			
	特定県支出金			
	起債			
	その他			
	一般財源		150	150
事業費計(A)		0	150	150
人件費	正規職員所要時間	50	50	50
	臨時職員等所要時間			
	人件費計(B)	176	176	176
	トータルコスト A+B	176	326	326

工業課まほろば事業

特定財源内訳

## (3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値			
	薪がエネルギー資源としてよみがえり、地域の産業として成立する。 活用された里山が増える。 平成16年度の実施成果を見ながら、川路地区内の他の公的機関への導入、個人として薪ストーブの導入を試みる家庭が生まれることで、面的な広がり期待している。合わせて他地区への波及も期待している。	活動をきっかけとして増加した薪ストーブ使用施設の数	16目標	1	16実績	1
17目標			1			
	活用された里山の面積	16目標	15ha	16実績	15ha	
		17目標	15ha			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
市の目指す都市像、「環境文化都市」の環境面の充実を図ることを目的とする。 川路地区は、農業と生ゴミ処理を連結させた、循環型モデルが始まっている。ここにさらに地区内の里山から産出された薪をエネルギー活用することで、多世代が学習を通して循環型社会を学ぶ機会としたい。	環境問題に関心を寄せる市民も増えており、何らかの行動をモデルとして進めることが求められている時代である。 今回の取り組みの実があがれば、同様の取り組みを他の施設に広げる可能性が生まれ、そのことにより循環型社会のあり方について問題意識や関心を持つ市民が増える。	環境との共生を考えた取り組みが個人やグループで考えられたり模索され始めている。 伊那谷自然友の会で里山の保全活動をすすめるという動きが始まっている。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響は?	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がある (その理由)		類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由)		効率性 評価	成果を下げずに、事業費・人件費の削減は?
			公平性 評価	受益者は誰か? 負担の是非、程度は妥当か?	(評価) 妥当である (その理由)

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案)	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	時期(年度) <input type="text" value="17"/> 「環境学習支援事業」に統合する。	